

(1) 実施機関名：

北海道立総合研究機構

(2) 研究課題（または観測項目）名：

（和文）北海道内の活動的火山の観測

（英文）Monitoring of active volcanoes in Hokkaido

(3) 関連の深い建議の項目：

2 地震・火山噴火の予測のための研究

(3) 火山の噴火発生・活動推移に関する定量的な評価と予測の試行（重点研究）

(4) その他関連する建議の項目：

1 地震・火山現象の解明のための研究

(4) 火山活動・噴火機構の解明とモデル化

(5) 令和5年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山及び北海道駒ヶ岳において、主に地球化学的モニタリングを継続して行い、火山活動の変化を捉えるためのデータの蓄積を行った。いずれの火山においても、計画期間中に明らかな活動の活発化を示唆する変化は認められなかった。得られたデータについては、気象庁や大学、地元自治体と随時情報を共有し、各火山の監視や防災対策に活用された。

北海道駒ヶ岳や倶多楽（登別地域）については、温泉・噴気観測の結果に加えて、地質学的検討も行い、熱水系のモデルを構築した（Takahashi, 2022；高橋ほか, 2022）。また、十勝岳や雌阿寒岳での長期間にわたる温泉・噴気観測の結果をまとめ、温泉や噴気の変化と火山活動との関係を検討した（Takahashi et al., 2019; Takahashi et al., 2023）。これらの成果は、今後のより効果的な火山観測体制の構築に活用する。

(6) 本課題の5か年の到達目標：

北海道における火山現象による被害を軽減するため、道内の活動的な火山を対象として主に地球化学的モニタリングを継続的に行い、観測データの蓄積と火山活動の現況把握を行うとともに、噴火の先行現象やそれに続く火山現象を捉えることを目指す。

(7) 本課題の5か年計画の概要：

雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山及び北海道駒ヶ岳において火山活動の現況を把握するために、主として温泉水や噴気を対象とした地球化学的モニタリングを継続的に行う。

熱水系の発達している火山については、これまで蓄積したモニタリングデータの再検討を行うとともに、熱水変質調査や地形調査などを必要に応じて行う。それによって得られた知見を基に、各火山における適切な観測体制の構築を随時行う。

得られたモニタリングデータなどは気象庁や大学と共有するとともに、地元自治体等へ情報を提供する。

(8) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

エネルギー・環境・地質研究所 地域地質部 地質防災グループ  
他機関との共同研究の有無：無

(9) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：エネルギー・環境・地質研究所 地域地質部 地質防災グループ

電話：

e-mail：

URL：<https://www.hro.or.jp/industrial/research/eeg/index.html>

(10) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：高橋良

所属：エネルギー・環境・地質研究所 地域地質部 地質防災グループ